

学校だより



平沼

横浜市立平沼小学校

平成31年1月7日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

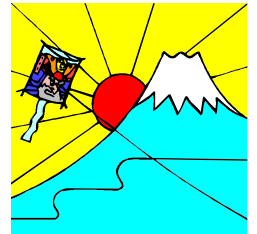
URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hirayama/>

新年を迎えて ～根拠のない自信を育てる～

校長 長谷川 絹子

平成最後のお正月、穏やかな年明けとなりました。本年も昨年と変わらぬご支援をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

皆様はどんな初夢をご覧になったのでしょうか。昔から初夢に見ると縁起がよいものとして「一富士 二鷹 三茄子 (なすび)」があります。三番目がなぜ茄子なのかは不思議ですが、一番に富士山が挙げられるのは納得がいきます。しばらく前、世界遺産に登録されましたが、富士山を見ると拝みたくするような、心が洗われるような気持ちになるのは私だけでしょうか。富士山の魅力を考えてみますと、まず、なだらかな裾野の広がる均整のとれた富士山の美しさだと思います。雪に覆われた静謐な姿も魅力的です。また、冬は自然の厳しさを現し、人を容易には受け入れない厳かさや今も活着していることにも惹かれます。しかし、何と云っても、どんと構えて見守ってくれているような頼もしさであり、つい安心感や祈りたくするような気持ちが湧いてきます。



今日から、子どもたちの活気に溢れた学校が始まりました。日々、生き生きと学び、遊び、友達とかかわる子どもたちを見ていると「根拠のない自信」という言葉が思い浮かび、たくましさを感じています。児童精神科医の佐々木正美さんは、「根拠のない自信」とは、人が人として生きていくための根っこであり、言葉を変えると「基本的信頼感」であり、子どもの心の内に「根拠のない自信」をたっぷりつくってあげることが大切だと書いています。そして、人を信頼する感性や感覚が最も育つのは乳幼児期であり、乳幼児の要求を可能な限り聞き入れてあげることによって人を信じる力がしっかり身に付くのだそうです。乳幼児期…と聞くと、十分に培ってあげられていなかったのではないかと後悔しがちですが、既に小学生になってはいってもまだまだ柔らかな心や感性をもつ子どもたちには遅過ぎることはなく、これからも身に付けさせていくことができます。考えます。「根拠のない自信」は、本校で育てていきたい自己肯定感でもあります。

“テストの点がよかったから算数が得意だ” “よくゴールを決めることができる自分はサッカーが上手だ” などの「根拠のある自信」もとても大切にしたいものですが、人と比較しながら得ていくことが多く、自分より優れたものに出会ったときには崩れたり、劣等感をもってしまったりしがちな面があります。子どもたちには、結果や他者との比較ではない「根拠のない自信」をぜひ育てていきたいと思えます。佐々木正美さんは、人間はどこかで全面的に受容される時期があればあるほど安心して自立できる動物であり、自分が全面的に受容されるのはありのままの自分を承認されることで、このままで自分はいいのだという安心感、つまり自信になるのだとも書いています。小学校という集団生活の中では社会性やルールを学ぶことも重要ですので、指導しなければならぬ場面もありますが、そのような場面でもその子を否定するのではなく方向性を示していく指導でありたいと思えます。「あなたがあなただから素敵なのです」という姿勢で子どもたちを受け止めていくことによって、子どもたちは相手を信頼し、それが自分を信じることにつながっていくのです。

平沼小が富士山のように一人ひとりの子どもを温かく見守り、安心感、自信、誇りを育てていくことができるように教育を進めていくことが、学校の大きな責務の一つであると、年頭に当たって改めて考えたところです。